



The Japanese Red Cross Society of Nursing Science

Vol.16, 2018.

日本赤十字看護学会

日本赤十字看護学会ニュースレター 第16号 2018年12月発行

NEWS LETTER

— 1



写真提供：日本赤十字社

社会保障事業に責任のある国家の当局者は、人間的な人々である場合もあるが、法律や規則、通達、官僚的な業務に縛られている。彼らは専門職として行動するが、ボランティアは助けたいという意欲と共感の気持ちに触発されて行動する。

このように赤十字は個人の善意を膨らませ、個人の思いやりに満ちた感情が集結される場所として機能する。そこでは個人は自発的に行動し、困難な状況下で誠心誠意、機転を利かせて活動することが期待される。

ジャン・ピクテ著『新版 赤十字の基本原則』東信堂 p86

日本赤十字看護学会 理事長挨拶

写真提供：日本赤十字社

日本赤十字看護大学
高田早苗

第6期に引き続き、第7期の理事長を務めることになりました。

第6期のスタート時にいくつかの課題を確認しておりましたが、そのひとつに赤十字看護学会にとって重要と思われる歴史に目を向けることができました。役員会で検討し、評議員会、総会で賛同いただき、歴史研究委員会を設置しました。その目的は、「日本赤十字社における看護師養成と看護活動の歴史に関する国内の資・史料を一元化すると共に、これらにアクセスできるシステムを構築することで、歴史に関する研究の基盤を作ること。また、学会員が赤十字の看護に関する歴史を学び親しむことで、歴史への関心を高め、先見性をもった赤十字の看護教育及び看護の在り方を探究すること」にあります。委員会は各地の役員、学会員の協力を得て既に活動を始めており、間もなくホームページ上でその成果の一端が紹介される見込みです。

学術集会の開催は順調に回を重ねてきたところですが、本年第19回は西日本集中豪雨の直撃を受け、やむなく中止せざるを得なくなったことは皆さまご記憶に新しいと思われます。多発化しており、またゲリラ的とも言われる予測困難な災害への備えが現実にはいかに難しいか、身をもって体験したところです。既にお知らせしたとおり、学術集会開催校と理事会とで協議していろいろな対応をしてきておりますが、今後も不測の事態を想定しつつ事業計画、予算案などの検討を進めてまいりたいと考えています。

前期のもう一つの課題に、学会員が魅力を感じられる学会活動、会員参画を意識した委員会活動があります。少しずつ具体化してきているところですが、次の総会ではそれが見えるようにしていきたいと思っております。会員の方々もどうぞホームページ等を通じてご意見をお寄せくださるようお願いいたします。

最後になりますが、日本赤十字看護学会は2019年、創立20年目を迎えます。変化が早くまた激しい時代にあって、改めて赤十字の看護実践が大切にしてきたこと、目指してきたことを振り返り、それを学術に高めていく学会として存在感を示すよう努めてまいります。

2018年10月

第19回日本赤十字 看護学会学術集会について

写真提供：日本赤十字社

会長 小山真理子

第19回日本赤十字看護学会学術集会は、「育つ力と育てる力がクロスする共有文化の醸成」のテーマで、広島県廿日市市にある日本赤十字広島看護大学で7月7日・8日の開催に向けて、2つの教育講演、特別講演、シンポジウム、一般演題（口演48題、示説46題）、指定交流集会4題、交流セッション8題、市民公開講座、ナーシング・サイエンス・カフェ等のプログラムを準備していました。前日は、大学の会場への物品の搬入、掲示物や会場の設営、企業展示等を含め、開催に向けて準備万端でした。

しかし、前夜の「大雨特別警報」により数十年に一度の大雨になるとの情報をを受けて、参加者の安全確保のために学術集会開催を急遽中止しました。学術集会の直前の中止は周囲の誰も経験したことはなく、決定後は講師、発表予定者、事前参加登録者、その他の学術集会に関連する人々への連絡やホテル・懇親会・弁当のキャンセル他、対応に大わらわでした。

理事長と相談し、学術集会の中止に係る措置として、講演集の発行をもって学術集会は成立することとしました。学術集会開催にあたっては、事前参加登録や企業の協力は非常に重要であることから、事前参加登録者には、参加費から講演集および諸費用を差し引いた金額を返金し、企業には出展料を返金することにしました。理事会・評議員会の議を経て、今回の学術集会の現地開催中止による赤字の補てんは、学会本部のご支援をいただけることになり感謝します。本学術集会でご支援賜りました多くの皆様方に、関係者を代表して心よりお礼申し上げます。

西日本豪雨に対する支援

写真提供：日本赤十字社

日本赤十字広島看護大学
渡邊智恵

平成30年7月豪雨。広島県は県内各地で発生した土砂崩れにより107名の死者を出した（県庁調、7月28日現在）。二次災害を予防し災害復興を促進するために、広島市ボランティアセンターが7月13日に設置された。全国からボランティアが集まる中、当初より活動されていた団体とともに、7月23日より支援活動をスタートさせた。本学が中心となり県内5大学（広島大学、県立広島大学、安田女子大学、広島都市学園大学、本学）が連携し、8月末まで延べ44人の教員が安芸区内5カ所で支援活動をおこなった（本学は公務として認定）。一日のボランティアは150人～200人に上り、夏休みに入るとその数は増えていった。真夏日が続く中で、熱中症対策や外傷に対するケアが主な役割であり、ボランティアにいられた方々が健康で継続して活動することができれば、被災地の復興が促進される。救急搬送する人が激減したことが成果であり、看護職がこうした活動に不可欠である。復興には時間を要するため、これからもともに歩み続けたいと考えている。



本学教員が左側（VC内で活動場所の確認をしている）



広島市安芸区の被害の状況

北海道胆振東部地震での こころのケア活動

写真提供：日本赤十字社

日本赤十字北海道看護大学
尾山とし子

9月6日に厚真町で発生した震度7の地震で、全道はブラックアウトと化した。いち早く赤十字は、傷病者・死者が多数である厚真町に入り、現地災害対策本部を立ち上げ、救護所開設と避難所巡回を開始。必要な治療や避難所環境のアセスメントを実施した。

私の派遣は発災2日後、まずは救護班に帯同し、情報収集を行い「こころのケア」のニーズを調査した。その結果、避難所巡回での傾聴や、行政職員等への支援であるリフレッシュルーム開設を早期から実現できた。急性期では、DHEAT、DPAT等様々なチームとの連携協働が必要であり、常に被災者を中心に据えた活動の重要性を改めて実感した。



こころのケア活動の様子

日本初の展開となった 備蓄型段ボールベッド

写真提供：日本赤十字社

日本赤十字北海道看護大学
災害対策教育センター 根本昌宏

本学は冬期災害対策を検討するために段ボールベッドの導入と改良を進め400台の備蓄をかけていた。北海道胆振東部地震発災直後の9月7日、北海道庁からの打診を受け、国のプッシュ型支援物資の一つとして翌8日に厚真町に移送された。資材としてのベッドだけでなく、展開についても赤十字スタッフに関わり、避難所環境の再構築を行った。発災後3日でのベッドの大規模導入は、これまでの災害で最速の展開となり、被災者の生活、特に睡眠環境の改善に貢献できたものとする。



理事・監事・評議員名簿

写真提供：日本赤十字社

平成30年総会にて、以下の理事・監事 評議員が承認されました。

(任期：2018年総会～2021年総会)

理事・監事名簿

(五十音順)

氏名	所属
理事 高田 早苗	日本赤十字看護大学 (理事長)
小山真理子	日本赤十字広島看護大学 (副理事長)
安藤 広子	日本赤十字秋田看護大学
江本 リナ	日本赤十字看護大学
河口てる子	日本赤十字北海道看護大学
田母神裕美	日本赤十字社
西片久美子	日本赤十字北海道看護大学
西村 ユミ	首都大学東京
本庄 恵子	日本赤十字看護大学
吉田みつ子	日本赤十字看護大学
川原由佳里	日本赤十字看護大学
齋藤 英子	日本赤十字看護大学
監事 小森 和子	元日本赤十字社
鶴田 恵子	聖隷クリストファー大学

評議員名簿

(五十音順)

氏名	所属
赤塚あさ子	名古屋第二赤十字病院
安部 陽子	日本赤十字看護大学
阿保 順子	元北海道医療大学
安藤 広子	日本赤十字秋田看護大学
伊吹はまよ	大津赤十字看護専門学校
植田喜久子	日本赤十字広島看護大学
江尻 昌子	日本赤十字幹部看護師研修センター
江田 柳子	元福岡赤十字病院
江藤 節代	NPO法人日本看護キャリア開発センター
江本 リナ	日本赤十字看護大学
遠藤 公久	日本赤十字看護大学
大西 文子	日本赤十字豊田看護大学
大林由美子	山口赤十字病院
小田 初美	京都第二赤十字看護専門学校
烏 トキエ	元日本赤十字秋田看護大学
河口てる子	日本赤十字北海道看護大学
川嶋みどり	日本赤十字看護大学
川名 るり	日本赤十字看護大学
北 素子	東京慈恵会医科大学
児玉真利子	旭川医科大学
小林 尚司	日本赤十字豊田看護大学
小林 洋子	日本赤十字豊田看護大学
小森 和子	元日本赤十字社
小山真理子	日本赤十字広島看護大学
坂口 千鶴	日本赤十字看護大学
佐々木幾美	日本赤十字看護大学
志賀くに子	日本赤十字秋田看護大学

氏名	所属
下山 節子	NPO法人日本看護キャリア開発センター
杉浦美佐子	椋山女学園大学
川ステインノみえ	日本赤十字社医療センター
高岸 壽美	日本赤十字社和歌山医療センター
高島和歌子	熊本看護専門学校
高田 早苗	日本赤十字看護大学
谷口 理恵	庄原赤十字病院
田母神裕美	日本赤十字社
筒井真優美	日本赤十字看護大学
鶴田 恵子	聖隷クリストファー大学
内木 美恵	日本赤十字看護大学
西片久美子	日本赤十字北海道看護大学
西村 ユミ	首都大学東京
根本とよ子	大森赤十字病院
野口 真弓	日本赤十字豊田看護大学
原 玲子	宮城大学
東 智子	熊本赤十字病院
東野 督子	日本赤十字豊田看護大学
樋口 佳栄	日本赤十字看護大学
本庄 恵子	日本赤十字看護大学
前田久美子	日本赤十字看護大学
松尾 文美	医学研究所 北野病院
村瀬 智子	日本赤十字豊田看護大学
柳 めぐみ	姫路赤十字看護専門学校
山田 聡子	日本赤十字豊田看護大学
吉田みつ子	日本赤十字看護大学

編集委員会

写真提供：日本赤十字社

編集委員は、会員の皆様と査読委員との対話の促進、そして採否決定までのプロセスを伴走する役割を担います。前期より電子査読システムを導入し、審査過程がスムーズになりました。19号からはJ-Stageでの公開を予定しており、本誌掲載の研究および実践の成果が、より広く必要とされる皆様へ届くようになります。今期は、これらの仕組みを安定させるとともに、アイデアを出し合い、より充実した雑誌となるように編集を進めたいと思います。

編集委員

西村 ユミ（委員長） 吉田みつ子 奥原 秀盛 飯村 直子 糸井志津乃 濱田真由美 樋口 佳栄
福井 里美 松本 佳子 山田 紋子

研究活動委員会

写真提供：日本赤十字社

研究活動委員会は、会員の皆様の研究活動を促進するために、次のような活動を行います。第一に年間60万円を限度として研究助成を行います。第二に優れた研究論文を表彰し、実践と研究双方の促進、本学会の活性化と発展を図ります。第三に看護研究に関するセミナーの開催です。会員の皆様から、研究活動に関するご意見、ご要望を募り、活動に取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

研究活動委員

吉田みつ子（委員長） 井本 寛子 喜多 里巳 谷口 千絵

臨床看護実践開発事業委員会

写真提供：日本赤十字社

本委員会では、「①臨床に埋もれている看護の技の発掘」「②看護の技の検証」「③検証された看護の技の普及」を行います。これまでの委員会活動では、前委員長や前委員の取り組みにより、「認知症高齢者へのケア」を発掘・普及し、成果をまとめることができました。

今年度から、また、新たなメンバーとともに、新たな領域で「臨床に埋もれている看護の技」を発掘することからはじめたいと思います。臨床に埋もれている優れた技について、会員のみなさんからの情報提供をお待ちしています。

臨床看護実践 開発事業委員

本庄 恵子（委員長） 伊藤 麻紀 清田 明美 楠見 和子 武田 美和 中村 滋子 村田 中

国際活動委員会

写真提供：日本赤十字社

国際活動委員会は、これまで赤十字の国際学会開催を目的に活動してきました。しかし、国際学会の開催は難しくなったことから今後の委員会活動目的を、国内外の国際活動の情報収集へと変更いたします。しかし、世界看護科学学会（WANS）に関しては、設立時学会の一員として理事会に参加しており、2019年開催予定の学会でも企画委員として活動いたします。

なお、理事や委員の交代に伴い、英文ホームページの内容を更新する予定です。

国際活動委員会

河口てる子（委員長） 安部 陽子 東 智子

災害看護活動委員会

写真提供：日本赤十字社



自然災害が多発している今日、被災地の皆様にはお見舞いと、支援活動等に対しまして感謝を申し上げます。

災害看護活動委員会は、今年度より新体制での活動を開始します。本委員会は「災害時の調査活動や学会・セミナー等を通して、災害看護に関する『経験知』を『形式知』として共有し、災害看護の発展に資する」ことを目的にしています。

この3年間において、災害時の情報ネットワークの構築、災害時の「受援体制」を赤十字災害看護に関する『経験知』としてまとめることを計画いたしております。

災害看護
活動委員

安藤 広子（委員長） 内木 美恵 大和田恭子 亀井 縁 久保 祐子 根岸 京子 濱谷 寿子
橋爪 朋子

歴史研究委員会

写真提供：日本赤十字社



歴史研究委員会では赤十字と看護の歴史を身近に感じられるよう関連の史資料（建築物や絵画を含む）を所蔵する施設を紹介するHPの会員専用ページを作成中です。また議論の場として学術集会で戦時救護に関するテーマセッションを企画しています。今後は当学会が社会に向けた提言等を作成するための支援もしていきます。本委員会の活動に対してご意見を願います。

歴史研究委員

川原由佳里（委員長） 城丸 瑞恵 関谷由香里 田母神裕美 西村 ユミ 村瀬 智子 川嶋みどり
小森 和子

広報委員会

写真提供：日本赤十字社



広報委員会では、年1回のニュースレターの発行とホームページの維持管理を主な事業として行っています。さらに見やすく使いやすいホームページにするため、今年4月にリニューアルを行いました。

また、最新の情報をいち早く正確にお伝えし、会員の皆様の実践・研究のお役に立つこと、そして学会活動がさらに発展するための一助となるよう、委員会メンバーとともに取り組んでいく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

広報委員

西片久美子（委員長） 小林 尚司 長尾佳世子 山本 美紀

将来構想委員会

写真提供：日本赤十字社



前期の法人化検討委員会の活動の成果を引き継ぐとともに、今期は将来構想委員会と名称を変更して、学会の法人化だけでなくより広い視点で検討します。将来構想委員会では日本赤十字看護学会としての学会のあり方について吟味し、活動のあり方、年会費等について、将来を見据ながら多面的に検討していきたいと思っております。学会のさらなる発展に向けて、会員の皆様の忌憚のないご意見をどうぞよろしくお願いいたします。

将来構想委員会

小山真理子（委員長） 高田 早苗 石原 美和 江本 リナ 守田美奈子 若林 稲美

第20回日本赤十字看護学会 学術集会のご案内

写真提供：日本赤十字社

日本赤十字看護学大学名誉教授
会長 川嶋みどり

新しい世紀の幕開けの2000（平成12）年に第1回の学術集会が東京で開催されました。以後、回を重ねて来年は20回目の学術集会を、同じく東京で開催いたします。

テーマは「赤十字看護の伝統を革新する独創性と実践力」とさせて頂きました。1890年に赤十字の看護教育が開始されて以来130年、多くの優れた有形、無形の看護のわざと、その根底に流れるケアリングの思想は、教育制度の変遷はあっても、今も脈々と受け継がれて来ていると思います。しかし、その優れた伝統自体を揺るがしかねない外因も多くあり、革新する意味自体が根本的に問われている側面もあります。

そこで求められるのが、独創的な感覚と構想力であり、その構想を実現する専門的実践力であると思います。多彩な切り口から看護を考えるために、樹々萌える初夏の広尾の丘で、研究成果を、そして現場ならではの実践報告をお待ちいたします。ユニークでゴージャスなプログラムもご期待下さい。



研究活動委員会主催 看護研究セミナーのお知らせ

テーマ：誰でも簡単、文献レビュー

講師：安部陽子先生（日本赤十字看護大学）

日時：2019年3月11日（月）15：00～16：30

場所：日本赤十字看護大学 詳細はホームページをご覧ください。

投稿論文についてのお知らせ

日本赤十字看護学会誌への投稿論文の受付は、電子査読システムにて随時行っております。ホームページの「論文投稿」のバナーから投稿してください。

多くの皆様の投稿をお待ちしております。

会員のみなさまへ

住所変更・退会届等は、下記の会員管理事務局へお願いいたします。

また、メールアドレスの登録をお願いいたします。

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル（株）毎日学術フォーラム内

日本赤十字看護学会会員管理事務局

TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555

E-mail：maf-jrcsns@mynavi.jp

NEWS LETTER The Japanese Red Cross Society of Nursing Science Vol.16, 2018. 日本赤十字看護学会ニュースレター 第16号 2018年12月発行

- 発行 日本赤十字看護学会 広報委員会
東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内
- 学会ニュースレターは学会ホームページからダウンロードできます。
<http://jrcsns.umin.ne.jp>
- 学会ニュースレターに関する皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。
nisikata@rchokkaido-cn.ac.jp
namimo@rctoyota.ac.jp までお願いします。

●編集後記

ニュースレター Vol.16号は、豪雨災害によって第19回日本赤十字看護学会学術集会と当日予定されていた総会が中止となった影響から、例年より約1か月遅れての発行となりました。2018年を振り返ってみると、1～3月の寒波（北陸豪雪）、6月の大阪北部地震（プールの外壁倒壊）、7月の西日本豪雨（堤防の決壊・学術集会中止）・40度越えの酷暑（熱中症多発、災害レベル）、7～9月には台風（開空水没、大規模停電等）、9月には北海道胆振東部地震（土砂崩れ多発とブラックアウト）等、本当に多くの災害がありました。本学会員の方々は、これら災害の場で様々な活動をされており、今回はその一端を報告していただきました。今年の総会において、広報委員も一部交代となりました。これから3年間どうぞよろしくお願いいたします。